

スイカ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	べと病	疫病	褐色腐敗病	菌核病	炭疽病	苗木枯病	つる枯病	うどんこ病	褐斑細菌病	果実汚斑細菌病
I C ボルドー66 DFL	M1		-	-					◎		◎			
Z ボルドー水	M1		-	-		◎								
イオウFL	M2		*e	-								◎		
タチガレン液	32		*b	1						◎				
トップジンM水	1		1	5				◎	◎					
トップジンMペースト	1		*c	5							◎			
ベンレート水	1		1	5				◎	◎		◎			
アフエットFL	7		1	3				◎			◎	◎		
カンタスDF	7		1	3				◎						
バシタック水75	7		*d	1						®				
パレード20FL*1	7		1	3				◎			◎	◎		
アミスター20FL	11		1	4					◎		◎			
スクレアFL	11		1	3				◎	◎		◎			
ストロビーFL	11		1	3					◎		◎	◎		
ライメイFL	21		1	4			◎							
ランマンFL	21		1	4			◎							
フルピカFL	9		1	4								◎		
セイビアーFL20	12		1	3				◎	◎					
スマレックス水	2		7	5				◎			◎			
ロブラール水	2		1	4				◎			◎			
スコア顆水	3		1	3					◎		◎	◎		
トリフミン水	3		1	5							◎	◎		
マネージDF	3		1	4								◎		
ポリオキシシナL溶	19		3	5							◎	◎		
レーバスFL	40		1	2			◎							
ピシロックFL	U17		1	3			◎							
キノンドー水40	M1		10	5	◎				◎					◎
サンヨール乳	M1		1	4								◎		
アントラコール顆水	M3		1	4				◎		◎				
ジマンダイセン水	M3		7	7	◎	◎		◎		◎			◎	
ペンコゼブ水	M3		7	7			◎		◎		◎			

スイカ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	べと病	疫病	褐色腐敗病	菌核病	炭疽病	苗立枯病	つる枯病	うどんこ病	褐斑細菌病	果実汚斑細菌病
ペンコゼブFL	M3		7	7					◎		◎			
オーソサイド水80	M4		*a 14	5	◎				◎	◎				
ダコニール1000FL	M5		3	5					◎	◎				
パルミノFL	M10		3	5								◎		
モレスタン水	M10		3	5								◎		
リドミルゴールドMZ顆水	4・M3		7	3			◎							
フォリオゴールドFL	4・M5		7	3			◎	◎		◎				
ゲッター水	1・10		21	5					◎					
ニマイパー水	1・10		1	5			◎	◎		◎	◎			
スミブレンド水	10・2		21	5			◎			◎				
シグナムWDG	7・11		1	3			◎	◎	◎		◎	◎		
ピカットFL	7・9		1	3							◎	◎		
ベジセイバーFL	7・M5		3	3			◎	◎		◎	◎			
ホライズンDF	11・27		1	3			◎							
アミスターオブティFL	11・M5		3	4			◎	◎	◎		◎	◎		
ファンベル顆水	11・M7		1	4				◎	◎		◎	◎		
ドーシャスFL	21・M5		3	4			◎		◎		◎			
ショウチノスケFL	9・U13		1	2								◎		
カスミンボルドー水	24・M1		1	5								◎	◎	◎
テーク水	3・M3		7	5					◎		◎	◎		
パンチョT F顆水	3・U6		1	2								◎		
ポリベリン水	19・M7		1	4					◎		◎	◎		
フェスティバルC水	40・M1		7	3			◎							
カンパネラ水 ベネセット水	40・M3		7	5			◎							
カーニバル水	40・M5		7	3					◎		◎			
プロポーズ顆水	40・M5		3	5			◎		◎					
カーゼートP Z水	27・M3		7	3			◎				◎			

*1:「うり類(成熟)」での登録

*a:播種後～2～3葉期まで *b:播種直後 *c:発病初期 *d:播種時～子葉展開時

*e:発病前～発病初期

◎:リゾクトニア菌による病害

スイカ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ザ ミ ウ マ シ マ シ	ア ブ ラ ム シ ラ ミ	コ ナ ジ ラ ミ エ	ハ モ グ リ バ エ	ウ リ ノ メ イ ガ	オ ト ウ ム シ ガ	ヨ ト ウ ム シ ウ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ネ キ リ ム シ ウ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ウ リ ハ ム シ ラ	ケ シ マ ル ト ビ ム シ	ハ ダ ニ シ ラ	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
スピノエース顆水	5		1	2	◎													
コロマイト乳	6		7	2														◎
トモノールS	UNM		-	-														◎
ラビサンスプレー	UNM		-	-														◎
バイデートL粒	1A	劇	*g sh	1	ミ	◎												グ
ガードホープ液	1B	劇	14	1														◎
スミチオン乳	1B		3	6	◎	◎												
ダイアジノン乳40	1B	劇	14	4	◎												◎	◎
ダイアジノン粒5	1B		*c 14	2 4									◎		◎			
ネマキック粒	1B		*a	1										◎				◎
ネマトリンエース粒	1B		*a	1														◎
マラソン乳	1B		1	6	◎										◎			◎
ラグビーMC粒	1B		*a	1														◎
アグロスリン乳	3A	劇	1	5	ミ	◎												
アードント水	3A		1	5	◎													◎
アディオン乳	3A		1	5	◎													
サイハロン乳	3A	劇	1	1	◎													
テルスター水	3A		1	4	◎													◎
トレボン乳	3A		3	3	◎	◎					ヨ	◎						
マブリック水20	3A	劇	3	2	◎													◎
アクタラ顆溶	4A		1	3	ミ	◎												
アクタラ粒5	4A		*e	1	◎													
アドマイヤー1粒	4A		*e	1	◎	◎												
アドマイヤー顆水	4A	劇	*d	3	◎	◎												
アルバリン顆溶	4A		7	2	◎													
スタークル顆溶	4A		*f *e *g	1	フ フ フ													
ダントツ溶	4A		1	3	ミ	◎									◎			
ダントツ粒	4A		*e	1	ミ	◎												
ベストガード溶	4A		7	3	ミ	◎	◎											
ベストガード粒	4A		*g *e	1	◎	◎	◎											
モスピラン顆溶	4A	劇	3	3	◎	◎	◎								◎			
モスピラン粒	4A		*e	1	◎													
トランスフォームFL	4C		1	3	◎	◎												
ディアナSS	5		1	2	◎								◎					
ラディアントSS	5		1	2	◎	◎			◎	◎	◎							
アグリメック乳	6	劇	1	3	◎		◎											◎
アニキ乳	6		1	3						◎								
アフーム乳	6		1	3	◎		◎											
コルト顆水	9B		1	3	◎	◎												

ス
イ
カ

スイカ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	アザミウマ類	アブラムシ類	コナジラミ類	ハモグリバエ類	ウリノメイガ類	オオタバコガ類	ヨトウムシ類	ハスモンヨトウ類	ネキリムシ類	コガネムシ類	ウリハムシ類	ケボシマルトビムシ類	ハダニ類	ネコブセンチュウ類
チェス顆水	9B		3	4	◎													
ニッソラン水	10A		1	2														◎
バロックFL	10B		1	2														◎
コテツFL	13	劇	1	2	ミ				◎	◎								◎
アタブロン乳	15		14	3	ミ							◎						
カスケード乳	15		7	4	ミ			マ	◎	シ								
カネマイトFL	20B		1	1														◎
マイトコーネFL	20D		1	1														◎
サンマイトFL	21A	劇	3	2		◎	◎											◎
ダニトロンFL	21A		1	1														◎
ハチハチ乳	21A	劇	1	2	◎	◎	◎											
ハチハチFL	21A	劇	1	2	◎	◎												
ピラニカEW	21A	劇	3	1														◎
モベントFL	23		*i	1	灌	灌	灌											灌
			1	3	◎	◎	◎											◎
スターマイトFL	25A		1	1														◎
ダニサラバFL	25A		1	2														◎
フェニックス顆水	28		1	2					◎	◎		◎						
ブリロツ粒	28		*k	1			◎											
プレバソFL5	28		1	3				◎		◎								
ベリマークSC	28		*i	1	灌	灌	灌											
			1	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎						
ヨーバルFL	28		*i	1	灌	灌	灌											
			1	2	◎													
ウララDF	29		1	2		◎												
グレーシア乳	30		1	2	◎		◎	◎	◎	◎		◎						◎
ダニオーテFL	33		1	2														◎
ファインセーブFL	34	劇	1	3	◎													
プレオFL	UN		1	2	◎				◎	◎		◎						
サンヨール乳	-		1	4		◎												◎
ミネクトデュオ粒	4A・28		*b	1	◎	◎	◎											
			*e			◎												
ダブルシューターSE	5・-		1	2	◎													◎
アブロードエースFL	16・21A		1	3			◎											

*a:定植前 *b:鉢上げ時～育苗期後半 *c:播種時又は定植時
 *d:収穫3日前まで(但し露地栽培については着果後から) *e:定植時
 *f:生育期(但し収穫21日前まで) *g:育苗期 *h:播種前又は定植前
 *i:育苗期後半～定植当日 *k:育苗期後半～定植時
 グ:ネグサレセンチュウにも適用 シ:シロイチモジヨトウ マ:マメハモグリバエ
 ミ:ミナミキイロアザミウマ ヨ:ヨトウムシ ワ:ワタアブラムシ
 灌:灌注処理での登録

スイカ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
炭疽病	苗床期～ 8月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 キノンドー水和剤40 800～1000倍 ゲッター水和剤● 1500倍 ストロビーフロアブル 2000～3000倍 ダコニール1000 (FL) 700倍 トップジンM水和剤● 1500～2000倍 ペンコゼブ水和剤 400～600倍 	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
苗立枯病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> 床土消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 	本病はリゾクトニア菌、ピシウム菌による。 #リゾクトニア菌にのみ有効。
	育苗期	<ul style="list-style-type: none"> 発生が認められたら被害株は抜きとりその跡地に次の薬剤のいずれかを灌注する。 オーソサイド水和剤80 800倍 2ℓ/m² タチガレン液剤 500～1000倍 3ℓ/m² バシタック水和剤75# 750～1500倍 3ℓ/m² 	
つる枯病	生育期	<ol style="list-style-type: none"> 発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル● 2000倍 スコア顆粒水和剤● 2000倍 スミレックス水和剤● 1000倍 ダコニール1000 (FL) 700～1000倍 ベルコートフロアブル 1000倍 ロブラール水和剤● 1000倍 <ol style="list-style-type: none"> 茎に発生を見たら、病斑部にトップジンMペーストを塗布する。 	本病菌は多くのウリ科植物を侵す。発病の適温が比較的広い。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
つる割病	播種前	<ol style="list-style-type: none"> 床土消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 ユウガオ台などによる接木栽培を行う。 	
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は早期に抜きとり焼却する。 	

スイカ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000～4000倍 スミチオン乳剤 1000～2000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000倍 	
ミナミキイロアザミウマ	定植時	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤を施用する。 ダントツ粒剤 (植穴処理土壌混和) 1～2g/株 	#アザミウマ類での登録
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 1000～2000倍 スピノエース顆粒水和剤# 5000倍 	
ウリハムシ	成虫発生時	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍 	山沿地域で発生が多い。
ハダニ類	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カネマイトフロアブル 1000～1500倍 	高温乾燥が続くと発生が多い。
ネコブセンチュウ	播種前	<ul style="list-style-type: none"> 床土は土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 	
	定植前	<ol style="list-style-type: none"> 作付予定地で、前作物に寄生があったところでは土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 次の薬剤のいずれかを定植前に全面散布して土壌混和する。 <ul style="list-style-type: none"> ネマキック粒剤 15～20kg/10a ネマトリンエース粒剤 15～20kg/10a ラグビーMC粒剤 20～30kg/10a 	